

第4学年2組 道徳科学習指導案

- 1 主題名 自然を大切にする
- 2 教材名 「ぼくとホタル」(自作教材)
内容項目 D 【自然愛護】

3 主題設定の理由

(ア) ねらいとする価値や指導内容について

本主題は学習指導要領の内容項目Dの「主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること」の第3学年及び4学年の「自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること」を中心とした道徳的価値としている。自分たちを取り巻く自然環境を大切にしたり、動植物を愛護したりすることが、自分だけでなく世界中の人たちに影響をもたらすことにも価値を置きながら考えていくものである。

私たちを取り巻く環境の問題は、複雑化・多様化しており、問題の解決にあたっては、国境を越えた協力・協調が不可欠なものとなっている。平成26年には「グローバル・アクション・プログラム」が国連で採択され、環境教育の推進が図られている。また、平成27年には「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されており、持続可能な開発目標(SDGs)が示された。そして、平成29年小学校学習指導要領においても、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられた。このような状況において、持続可能な社会の構築を目指す環境教育の必要性は一層高まっている。

私たち人間は、自然界の一員として日々の生活を営んでいる。しかし、日常生活の中で自然の恵みや素晴らしさ、雄大さを感じる機会は少なく、動植物と共存しながら自然と関わっているということを自覚した行動が取れていないと感じることがある。環境問題が世界中で問題になっていることは知っていて、頭の中で解決策を考えることはあっても、自然を損なう行為をしてしまっていることに気付いていないこともある。身近なことから少しずつ行動を起こしていくことが、自然を守ることに繋がるということに気づき、自然との関わりを意識した生活をしていくことが必要である。

そこで、自然のもつ美しさや雄大さをもう一度考えさせ、自然環境を大切にしていこうとする気持ちを育てたい。そして、持続可能な社会を実現するための資質を高めていける学習ができるようにしたい。

(イ) 使用する教材の特質及びそれを生かす活用の方策

本教材は、主人公のぼくが、昔住んでいた田舎の町に帰るところから始まる。昔と変わった景色や町の様子を見ながら、母校の小学校に行ってみると、小学生のときのことを思い出す。夏休みに、小川でホタルを友達と一緒に見た。その時に、ホタルの美しさや儂さを感じたぼくだったが、その後、そこでホタルを見ることはできなくなってしまった。環境汚染により、ホタルが生きていけるきれいな水ではなくなってしまった。そして、その小川を見つめながら、大人になったぼくは考えこむという話だ。

環境汚染とは、決して子供たちのせいでは起きていないわけではなく、経済成長や開発に伴い、地球温暖化などの問題とともに起きてしまったものである。しかし、私たち一人一人が意識を変え、行動を改めていくことでよい環境にしていくことは可能である。そこで、場面把握をするときに、ホタルがいなくなってしまったのは、環境汚染につながる様々な問題が影響していることをとらえさせる。そうすることで、環境をよくしていきたいという気持ちが高まり、今後の行動に対しての必要感が芽生えるであろう。自分事として環境問題をとらえ、今後の自分の生活と向き合うことができると考えた。

これらの活動から、自然と動植物を大切にする態度を育て、そのために自分に何ができるのか考え

させることでねらいに迫りたい。

4 指導構想

自然を大切にする

事前

<子供の意識や教師の願い>

○自然や動植物を大切にするだけでなく、環境保全について関心をもち、その必要性について考えて行動しようとする意欲を高めたい。

<関連する学習活動>

社会「わたしたちのくらしと水」
くらしに欠かせない水がどのように管理され、自分たちの元に届くのか調べる。



総合「エコエコ大作戦」
SDGsと関連付けて「エコ」について調べまとめる。



社会「わたしたちのくらしとごみ」
わたしたちの出しているごみがどのように処理されるのかについて調べる。



理科「季節と生き物(秋)」
秋の生き物について調べ、季節と生き物の関係について考える。



本時

「ぼくとホテル」 D [自然愛護]

環境保全について関心をもち、その必要性について考えることを通して、身近なところから自分たちなりにできることを実行しようとする意欲を育む。



事後

特別活動

「ISDGs (院内エスディージーズ)」

自分たちにできることを考え、実践していく。



社会

「わたしたちのくらしと自然災害」

地震などから人々を守るために活動している人たちについて調べる。



(1) ねらい

環境保全について関心をもち、その必要性について考えることを通して、身近なところから自分たちなりにできることを実行しようとする意欲を育む。

(2) 展開

指導過程	学習活動と内容	教師の指導と支援 (○) 評価 (◇)
導入	1 「ホタル」について知っていることを確認する。 ○前時に見た映像のホタルは、どんな様子でしたか。 ・きれいだった。 ・ほかの生き物の声もした。 ・とてもきれいな自然だからホタルが住んでいる。	○環境汚染とホタルの命についての関連性を全体で共有することで、価値の方向付けができるようにする。 ○事前にホタルや、ホタルの住む自然の映像を見せることで、ホタルの美しさや、自然の壮大さを感じられるようにする。
展開前段	2 教材「ぼくとホタル」を読み、話し合う。 ○この物語の問題とはなんでしょうか。 ・ホタルがいなくなってしまったこと。 ・人間のせいで自然が汚れてしまったこと。 ・どうすれば自然や生き物を守ることができるのか。 ○だまってホタルを見つめているとき、ぼくたちはどのようなことを考えていたでしょうか。 ・きれいだな。 ・守りたい。 ・もっと増えてほしい。 ・ずっと生きていてほしい。 ・また見たい。 ○汚れた小川を眺めながら考えているぼくの心には、どんな思いがありますか。 ・ホタルさん、ごめんね。 ・自然や生き物を守りたい。 ・便利な生活も大切だけど、今のままではだめ。	○SDGs の 17 の目標と教材の関連について考えることで、多面的・多角的に価値について考えられるようにする。 ○問題を児童から引き出すことで、問題解決的な思考を持てるようにする。 ○ホタルの美しさや、儚さに目を向けさせることで、登場人物の心情を理解できるようにする。 ○ウェビングマップを活用することで、ぼくの様々な思いや葛藤を考えられるようにする。 ○SDGs カードを見るよう促すことで、ぼくの思いについて多面的・多角的に考えられるようにする。
展開後段	3 自然を大切にしていくなための気持ちについて考える。 ◎自然を守るために必要な気持ちはなんですか。 ・環境を守ることが、生き物を守ることもつながる。 ・自分にできることがなにか考えること。	○考えたことを全体で話し合うことで、それぞれの考えのよさを認め合えるようにする。
終末	4 本時の学習の振り返りを行う。	

<p>○自然に対して、感じたことや考えたこと、自分にできることについて書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習で、自然を大切にすることが生き物を大切にすることにもつながるのが分かった。これから、自分なりにできることを考えて、続けていきたい。 	<p>○考えたことだけでなく、自分ができることについて書くことで、今後の生活に生かせるようにする。</p> <p>◇自然を守るためにどのような気持ちが必要か考え、自分にできることに対して意欲を高めている。</p>
---	--

5 板書計画

黒板。

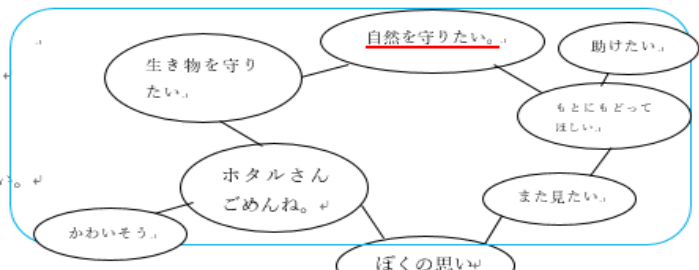


ぼくとホテル

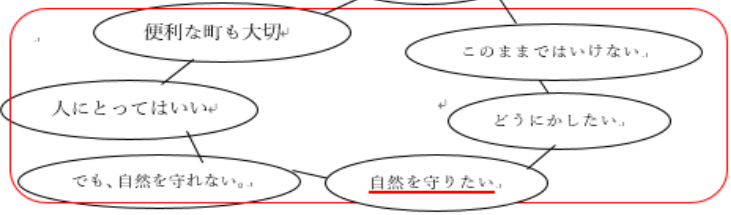
自然や生き物を守るためにはどうしたらよいか。

- ホテルを見つめているとき (昔)
- ごみを見つめているとき (現在)
- ◎自然を守るために大切な思いはなんですか。

- ・きれいだな。
- ・もっと見たい。
- ・守りたい。
- ・ずっと生きてほしい。



- ・環境をまもることで、生きものも守ろうとする気持ち。
- ・自然のことを考えながら行動しようとする気持ち
- ・自分にできることを一人一人がしようとする気持ち



ホテルの写真

ホワイトボード。

- ・きれい
- ・星みたい
- ・川や水が汚れて、住む場所が減ってしまっている

町の様子
写真1

町の様子
写真2

町の様子
写真3

町の様子
写真4

6 資料『SDGsカード』（ラミネートして一人一枚配布済み）

	まずしい人をなくそう		どの人も、どの国も、みんな同じ
	食べられなくてえいようが足りない人をゼロに		だれにとっても安全で住みやすいまちづくりを
	みんながけんこうで安心してらせるように		むだにしない、作りすぎない。食べ物もしげんも。
	みんながいい教育を受け、学習できるように		変わりやすい天気や、それによるひがなくなるようにできること
	男の人も女の人も大人も子どももみんな同じ		海の生き物を守ろう
	みんながきれいな水やトイレを使えるように		森林や陸の生き物を守ろう
	安くいつでも使えるエネルギーをみんなに		平和で、みんながおなじようにらせる社会を
	みんながやりがいのある仕事をできるように けいざいも成長していくように		これらの目標に向かってみんなで力を合わせよう
	さいがいがあっても大じょうぶな水道・ガス・電気・交通などをつくり、 社会がどんどん元気になるように		

SDGs

～わたしたちが目指す世界～2030年までの17の目標～